

## 令和7年度（津久井浜高等学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

## ○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上 （高い規範意識の保持及びわいせつ事案をはじめとする不祥事の根絶、服務規律の徹底）	教育公務員としての自覚を新たにし、「神奈川県職員行動指針」に基づいた公務外非行の防止を徹底する。	会議や打ち合わせ等をとらえて、職員の法令順守意識を高めることに努めた。
個人情報等の管理、 情報セキュリティ対策	個人情報保護についての意識と知識を深め、個人情報の漏洩、流出を防止する。	日々変化する個人情報に関連する事象を的確に把握し、今後も情報漏洩や流出が起きないように今後とも努めていく。
児童・生徒に対する わいせつ・セクハラ 行為の防止	職員各自がわいせつ事案を絶対に起こさないという強い決意を持つとともに、生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の徹底防止に努める。	各部屋の可視化に取り組む等、死角撲滅に一定の成果をあげている。
職場のハラスメント （パワハラ、セクハラ、 マタハラ等）の 防止	職員各自が人権意識を高め、あらゆるハラスメントの徹底防止に努める。	各職員が言葉遣いに気を遣うなど、人権意識の高まりがみられる。
体罰・不適切な指導 の防止	生徒の人権擁護を第一に考え、全ての教育活動において体罰ゼロを堅持する。	学校教育法第11条で規定されている通り、今後も体罰ゼロを堅持していく。
業務執行体制の確保 等（情報共有、相互 チェック体制、業務 協力体制）	必要な情報を迅速かつ的確に共有する。全ての重要書類において複数でチェックする体制を整える。また、スクールミッションや学校目標の達成に向け、全職員が協力して業務にあたる。	文書作成において、起案時に複数名での確認を徹底するなど、ミス防止に努めるとともに、業務の精選を行うことで、学校目標の達成に向けて 有用な時間の確保に努めた。
入学者選抜、成績処理 及び進路関係書類 の作成及び取扱いに 係る事故防止	入学者選抜は、受検生の将来を決める極めて重要な業務であるという意識のもと、全作業において緊張感をもって業務にあたる。また、実際に起こったミスや事故の情報を共有し、調査書や通知票の作成及び成績処理に係るミスを未然に防止する。	確認作業等を複数名で行うことを徹底するなど、今後も事故防止に努め、事故ゼロを継続していく。
交通事故防止、酒酔い・ 酒気帯び運転防止、 交通法規の遵守	交通事故を起こさないことはもとより、事故にあわないよう日頃から交通安全の意識を高く持って行動する。	会議や打ち合わせ等で、公務員としての自覚と公務内外の行動等におけるモラルやマナーの順守について徹底して周知している。
財務事務等の適正執行	会計事務の執行を適正に行い、事故の発生を防止する。	複数名での会計伝票内容確認を徹底して行うことで、ミス防止に努めている。

<p>その他日常の注意喚起による不祥事防止</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テストの実施や成績処理、入学者選抜期間など、事故が起こりやすいタイミングで管理職および所管グループから「不祥事防止」についての注意喚起を行い、意識啓発を行う。</li> <li>・教育長通知や報道記事など、不祥事例等の情報はすぐに紹介することで規範意識を高めるとともに、職員の体験談などを紹介しあい、事故不祥事防止を自分のこととしてとらえられるようにする。</li> <li>・困ったときや問題を抱えたときに、すぐに管理職や周囲の職員に相談できる、風通しがよく「同僚性」が高い職場づくりを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に適切な緊張感をもって業務を遂行できるように、職員打合せや各種会議において不祥事防止に係る内容を順次取り上げ、継続して意識啓発ができるように努めた。今後とも、風通しの良い職場づくりに努めていく。</li> </ul>
---------------------------	---	---

○ 令和7年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和8年度に取り組むべき課題  
(学校長意見)

令和7年度においては、不祥事防止ゼロプログラムの内容は、おおむね達成できたと考えている。不祥事防止に係る内容は、継続性が非常に重要なため、今後も機をとらえて適切に職員に対して不祥事防止の意識啓発に取り組んでいくとともに、情報収集能力の伸長に努めていく。